

令和4年度第3回全国健康保険協会秋田支部評議会議事録

開催日時：令和4年10月18日（火）10：30～12：00

開催場所：ルポールみずほ 2F ききょう

出席者：松渕評議員（議長）、佐々木（宏）評議員、佐野評議員、柳田評議員

小林評議員、佐々木（卓）評議員、舘岡評議員、栗盛評議員（代表別・50音順）

加藤支部長、河上部長、安田部長、青木グループ長、園部グループ長、二田グループ長、
今野グループ長、吉田グループ長補佐、澤口主任、鈴木スタッフ（記）

議事録署名人：佐野評議員、柳田評議員（50音順）

■ 議事事項

1. 令和5年度保険料率に関する論点について

○ 質疑応答、意見交換等

〈論点1〉

【事業主代表】

一定の所得を超える後期高齢者の自己負担割合が、1割から2割に引き上げられたが、協会けんぽにはどのような影響が生じているかお伺いしたい。

【事務局】

国が試算した財政影響をもとに、協会けんぽが負担する後期高齢者支援金への各年度の影響額として、2023年度が260億円、2024年度が270億円、2025年度と2026年度が280億円、後期高齢者支援金の負担が軽減される見込みである。なお、後期高齢者のうち70%を超える人が1割負担という状況である。

【学識経験者】

今後、財政状況の悪化した組合が解散を選択し協会けんぽに移る事態が予想されるとのことだが、協会けんぽとしては、このような事態はプラスとなるのかマイナスとなるのか、どのように予測されるかお伺いしたい。

【事務局】

収支差が赤字の見込みとなる組合が解散して協会けんぽへ移ってくるため、協会けんぽとしては、負担増加が予測される。

【被保険者代表】

今後も医療費は伸び続ける見通しから、いずれ平均保険料率の変更を行わざるを得ないと思われるが、当面の間は現状の平均保険料率の維持に努めていただきたい。

【事業主代表】

平均保険料率10%を維持するためには、戦略的保険者機能を最大限に発揮していくことが必要と考える。また、医療体制を維持するため、医療を受ける側が適正受診を心がけることが重要ではないだろう

か。かかりつけ医、かかりつけ薬局をもつことやセルフメディケーションなど、受診者側の行動変容を促す活動を保険者全体で行うことが必要と考える。

【被保険者代表】

今後、平均保険料率が上がっていくことは、事業主、被保険者双方の負担増加となり厳しいものがある。

【事業主代表】

急激に保険料率が上がることは避け、安定した財政運営を行っていただきたい。

準備金残高と法定準備金に対する残高変化のシミュレーションにおいて、10年後にはかなりの準備金が減ってしまうと試算されているが、できるだけ長く平均保険料率10%を維持できるよう対策をとっていただきたい。

〈論点2〉

【学識経験者】

令和5年度保険料率の変更時期については例年通りでよい。

【被保険者代表】

例年通りの時期に実施したほうがよい。

2. 令和5年度秋田支部事業計画及び保険者機能強化予算策定に向けた意見交換について

○ 質疑応答、意見交換等

【被保険者代表】

健診受診により医療機関への早期受診者が増えることで入院外の医療費は増加することが予想される。しかし、早期治療をせず重症化し入院となるほうが医療費としては増加してしまうため、入院外の医療費が増加したとしても、早期受診、早期治療を行うことが総体的に医療費の抑制につながるという理解でよろしいかお伺いしたい。

【事務局】

委員のご理解で正しいと認識している。重症化して入院すると治療費も高額となるため、健診を受診し異常があれば早期に治療を行う必要がある。また、運動や食生活など日頃の生活習慣の改善も重症化予防の上で重要となる。

【被保険者代表】

二次健診に行く人が少ない。自主的に受診しない人には事業主からの受診勧奨が有効と思われるため、要治療者へ受診勧奨を行うよう、事業主に対して働きかけを行ってほしい。

【事業主代表】

血圧リスク保有者への対策において、例えば食品に含まれる食塩のグラム数等を示して減塩を働きかけるといった活動は、どの事業にて実施されているのかお伺いしたい。

【事務局】

健康経営宣言事業所に対して、減塩ポスターを配付している。また、動画サイトにて減塩レシピの配信や広報誌にて減塩について発信している。

【学識経験者】

取組を見た中で、一般の人に対して働きかけるポピュレーションアプローチは多く取り組まれているが、ハイリスクの人に対しての具体的な取組が不足している印象を受けた。ハイリスクの人については、自主的に動かない傾向にあるため、事業主等の周囲の理解・協力のもとアプローチの機会を確保していただきたい。

【学識経験者】

大人になってから、食生活の改善を行うことは容易なことではない。子供のうちから正しい食生活を習慣化させるためにも親世代にアプローチを行うのも有効なのでは。

【被保険者代表】

減塩について幼いころからの教育が大切。給食においても減塩に努めてほしい。

生活習慣病予防健診の予約を取るのに苦労しているとの声が多い。年間で健診の予約が集中する月と比較的余裕のある時期があれば、分散して受けられるような仕組みにすることで予約が取りやすくなるのではないかと。

【事務局】

数年前は、1年間のなかで閑散期があり、その時期については比較的容易に健診が受けられるような話もあった。現在は健診の受付が3~4月に始まるが、早い病院だと半日で1年分の予約が入ってしまうなど、ほとんどの病院が4月中に1年間の予約が入ってしまう現状である。健診の予約をとるのに苦慮されている状況は把握している。現在、受診機会の確保のため集合健診を展開しており、県内の健診実施医療機関に対しても、予約枠を拡大していただくよう依頼を行っている。

また、生活習慣病予防健診にはがん検診が含まれているが、事業者健診には含まれておらず、項目として不足していることから、新しい医療機関の開拓を県の協力を得ながら展開している。

【事業主代表】

健診を希望する人がもれなく受けられる環境を整えることが重要と考える。

また、事業計画のうち「ジオターゲティングを活用した喫煙対策事業」は対象者の的を絞っており、有効な取り組みだと感じた。

KPI実績のうち、受診勧奨後3ヶ月以内に医療機関を受診した者の割合が低いことから岩盤層への受診勧奨が課題とのことだが、身近な人やかかりつけ医、かかりつけ薬局等の専門家からの声掛けが有効なのは。周囲から受診勧奨を行うよう広報等実施してほしい。

取組のなかで大学との共同研究とあるが、具体的にどのような内容かお伺いしたい。

【事務局】

秋田大学医学部と共同研究を実施しており、内容としては中小企業の従業員の方がどのような健康リスクを抱えているか分析している。近年、学会にて発表した内容として、秋田県は全国と比べて飲酒習慣と時間外受診が高いという点に着目し分析・研究を行っている。高血圧の対策については、秋田県ト

トラック協会の会員事業所様を対象にトラックドライバーの栄養調査を行う予定である。その中で塩分の摂取量等の栄養調査を詳しく実施する。そこから高血圧対策としてハイリスクアプローチもしくは会員事業所様へのポピュレーションアプローチを実施し、効果検証を行いながら秋田支部の加入者へ展開していく予定である。

【学識経験者】

平均寿命や健康寿命についての意識を高めるべきであり、その関連も含めたデータ分析等行ってほしい。また、協会けんぽデータに加え、地方自治体で保有している国保データを合算し分析する等、より連携を強化した取組を行ってほしい。

【被保険者代表】

医療機関未受診のリスク保有者の行動変容を促すうえで、事業主の力が大きいのではないだろうか。事業主や事務担当者からの声掛けが有効だと思われるので「言われれば動かざるをえない」を利用して、ぜひ周囲のフォローの重要性を周知していただきたい。

【事業主代表】

自治体と共同していくにあたり、行政はポピュレーションアプローチ、協会けんぽや健保組合はハイリスクアプローチに力を入れる等といった事業整理、役割分担が連携の中で必要なのではないだろうか。

ハイリスクアプローチにおいて、受診勧奨を受けても受診しない従業員に対して事業主は危機感を持たなければならない。今後、人手不足が深刻化するなかで、従業員の重症化を未然に防ぐために、早期受診の働きかけを行わないと事業所として大きなリスクを負うことになることを、事業主へ理解してもらおう働きかける必要がある。事業主の意識改善に向けた取組を行うべきである。

秋田県は定期健診にがん検診を合わせて受診できるよう補助等行う必要がある。

減塩について、外食の多い人に向けて減塩商品の購入や、減塩メニューを選ぶことができる環境を整える必要がある。

【学識経験者】

秋田県は塩分を多く含む食品が多いため、減塩に取り組む環境づくりが大切ではないだろうか。行政等と連携し地域全体で取り組んでほしい。

3. 更なる保健事業の充実について

【学識経験者】

中長期的に取り組むことで成果が表れてくると思われる。

■次回評議会の開催 令和5年1月開催予定